

# 2024年8月2日 『朝礼時講話～報告事項』

## (1) 講話概略【無財の七施(むざいのしちせ)…⑤】

今月も仏教の教え『無財の七施』についてとなりますが、7つの施しの内の7つ目、「房舎施」についてです。『房舎施(ぼうじゃせ)』「安心できる、休息できる家を提供する施し」です。旅に出て、行った先で安楽な体験をしても、家に帰ってみれば、「やっぱり自分の家の布団が一番安らぐわあ〜♪」などという経験をした人も多いのではないのでしょうか。

しかしながら、安らぐ場所であるべき自宅が、そうではない、むしろ帰りたくないという人もいて、決して少ないわけではありません。ですのでここでは、「安心できる、休息できる拠り所」としてみたいと思います。そうすると、例えば、「子ども食堂が自分の拠り所」という人もいれば、「学校が私の居場所」という子どもさんもいるでしょう。[最近では、子どもの身を護る『子どもシェルター』とされる緊急避難所も出てきました。]「家よりも職場がホッとすると、ということだっています。いずれにしても、その人が最も安心して過ごせる場所があるか無いかでは、生きている今の気持ちも随分変わってきますね。

そして、この7つ目の『房舎施』を生み出すのは、これまでお話ししてきた6つの『無財の七施』があればこそではないかなあと私は思っています。建物が仮に古くても、そこには施してくれる「温かい人」がいることで、十分な拠り所になっていくのだろうと感じています。

- ① 貴方の味方だよ…と温かい眼差しで見守ってくれる『眼施(がんせ)』
- ② 貴方の事が無条件に愛しいんだよ…と優しく微笑み掛けてくれる『和顔施(わけんせ)』
- ③ 素直に「ありがとう」「ごめんね」と声を掛けてくれる『言辞施(ごんじせ)』
- ④ 重い荷物を代わりに持ってくれたり、力仕事で尽力してくれる『身施(しんせ)』
- ⑤ 「何もできないけど…」と言いながら、いつも心配りや案じてくれる『心施(しんせ)』
- ⑥ 席をあけて、居場所を作って待っていてくれる『床座施(しょうざせ)』
- ⑦ これらを沢山施して、安心して過ごせる拠り所を提供してくれる『房舎施(ぼうじゃせ)』

この無財の七施には、私が誰かにやって差し上げる以前から、家族や先生や友だち同僚や地域の人が、私のために施してくれていた事に気づいて欲しいという願いがあると思うんです。私たちは人間ですから、自分の心の状態次第では、他者の施しがうとうしい、余計なお世話だ!と思う事があります。そんな事を思ってしまう私なのですが、後から振り返ってみて、「私のために思って、してくれていたんだなあ…」と、尊び直す心が大切なんだよなああと、歳を重ねたせいか最近よく思います。施してくれた過去の人にはお返しできなくなった(死別等)としても、今度は傍にいる家族や同僚に施すという事ができる。今月も、施し合って過ごしていけたらと願っています。

## (2) 連絡事項 【講話+②~④ 理事長 ①生活課長】

- ① 本日のショートステイは、夕方1名退居となります。
- ② 8月7日は盆踊りの会を予定通り実施したいと思います。先日回覧された役割表など詳細をもう一度お目通し下さい。
- ③ お盆のおみがき(御仏具磨き)を事務所職員でお盆前に行く予定です。
- ④ 退職予定の職員の件です。光寿苑ではリネン交換と朝食の食事介助に尽力して頂きましたTさんが上半期いっぱいをもって退職となります。半年前からお話がありましたが、ご本人の希望もあり、この度の報告となりました。また、ひなたぼっこ開所から尽力してくれたKさん、Hさんも今月で退職となります。管理者代行をHさんとして、新たに取り組んでいきます。一緒に働ける残りの時間、大切に過ごしていきましょう。